

宮古教育事務所「特別活動 学級活動(2)(3)学習指導案」作成のポイント

第3学年 学級活動(3)指導案

令和8年3月3日(火) 5校時
3年1組 28名
授業者：多良間 遊

1 題材 「4年生に向けて」

内容：学級活動(3)ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

POINT 「題材」とは、教師が年間指導計画に即して設定したものを「題材」と称する。
○学級活動の内容(2)では、日常生活や学習への適応、自己の成長、健康安全に関する課題等
○学級活動の内容(3)では、現在及び将来を見通した社会生活や主体的な学習態度、社会参画に関する課題

2 題材について

(1) 児童(生徒)の実態

POINT 以下に示した項目の内容を含んだものにして記述する。
○児童(生徒)の学級生活における実態(観察や題材に関わるアンケート調査を活用し、具体的に捉える。題材によっては保護者へのアンケート調査も有効である。)
○児童(生徒)が自己の課題として真剣に捉え、目標や方法などを「意思決定」できるようにアンケート結果を表やグラフで可視化するなど工夫し、実態把握を事前の指導や本時の導入に生かす。

(2) 題材設定の理由

POINT 【×題材選定 → ○題材設定】
○学級生活における児童の実態から、この題材を取り上げる必要性
○教師の題材観、指導観
○必要に応じて、各教科、道徳科及び総合的な学習の時間との関連を図った計画的指導や学年段階、発達段階に即した系統的な指導に関わる配慮事項など

3 校内研修テーマとの関わり

2年研、中堅研については個人の課題研究テーマとの関わりを記述する

課題研究テーマ
～サブテーマ～

POINT 本活動を通して、研究テーマへどのように迫っていくのかを記述する。

4 第3学年及び第4学年の学級活動(3)の評価規準

※中学校：学級活動(3)の評価規準

〈例〉 よりよい生活を築くための知識・技能	〈例〉 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	〈例〉 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
-----------------------	---------------------------	------------------------------

POINT
○学習指導要領に準じて、各学校で定めた「評価の観点」及び「評価規準」を記載する。
○各学校で定めていないときには、『学習指導要領解説(小、中特別活動編)』や『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(特別活動)』第2編の例示を参照すること。

5 事前の指導〈記入例〉

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童(生徒)の姿【観点】〈評価方法〉
2月24日 帰りの会	・3年生のこれまでの振り返ったり、4年生へ向けた期待感を想起したりするアンケートに記入する。	・「4年生に向けて」のアンケートを用意し、3年生の生活を振り返ったうえで、4年生に向けての期待感を想起できるようにする。 ・「キャリアパスポート」等を活用し、これまでの自分の成長に気付けるようにする。	◎3年生の生活を振り返ったり、4年生に向けての期待感を抱いたりして、学習への見通しをもとうとしている。 【主体的態度】 〈アンケート〉

6 本時の展開〈記入例〉

(1) 本時のねらい

これからの学級や学校生活に希望や目標をもち、自分なりのめあてをもって学校生活を送ることができるようにする。

POINT 自他の関わりの中で、個人の課題を踏まえ、どのような「意思決定」ができるようにしたいのかの指導のねらいを端的に記述する。

(2) 展開

	児童（生徒）の活動	指導上の留意点（教師の手立て）	◎目指す児童（生徒）の姿 【観点】 〈評価方法〉
導入 つかむ 5分	1 1年間を思い出し、自分や友達、自分たちの成長について話し合い、問題意識を高める。 2 めあての確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">なりたい4年生に向けて、自分が実践することを決めよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果をもとにして、4年生に向けて期待感を抱いていることに気付けるようにする。 「キャリアパスポート」をもとに自分たちの成長を想起できるようにする。 課題をつかませて、めあてにつなげる 	
展開 さぐる 10分 見つける 20分	3 これまでの自分を振り返って「なりたい4年生」について自分の願いをもつ。 4 「理想の学級生活・なりたい自分」に近づくために、どのようなめあてにすればよいか考え、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の見通しと意思決定すべきことが分かるよう、学習のプロセスを説明する。 「発問」や、懸念される影響等は予想できるため、事前に黒板に張り出す文言を準備して貼り付けるなどスムーズな展開を心掛け、次の展開の時間を確保する。 目指したい学級生活やそうした学級生活を実現するためにはどんなことに取り組んだらよいか、話し合うようにする。 	◎自分のよさに気付き、今できることを努力して取り組むことが大切であることを理解している。 【知識・技能】 〈ワークシート・発言〉
終末 決める 10分	5 「なりたい自分」に近づくために、今がんばることを決め、伝え合う。 【意思決定】 6 先生の話	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いで出された意見などを生かして、実践可能なめあてや具体的な実践方法を決めることができるようにする。 めあてを立てることが難しい児童には、個別に言葉かけをする。 	◎なりたい自分に向けて自分のめあてを意思決定することができる。 【思考・判断・表現】 〈ワークシート、観察〉

POINT ○活動の流れ
つかむ【課題の把握】→みんなでさぐる【原因の追究】→みんなで見つける【解決方法等の話し合い】→自分で決める【意思決定】

POINT ○学級会を充実させる教師の指導助言
〈展開〉・ペア等での話し合いから多様な意見を引き出して、簡潔に板書(可視化)するように努める。
・教師はファシリテーターとなり、話し合いを深める助言等に努める。
・他のグループの考えと比較、関連するなど意思決定に向けての考えが深める重要な活動である。短冊やボードの活用、板書での可視化を行うようにする。
〈終末〉・意思決定したことへの価値付け
・今後の実践に向けての意欲付け など

【意思決定】 「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」P.72～参照

学級での「話し合い」を通して、共通する課題を見だし、多様な視点から解決方法を見つけ、自己の具体的な実践課題を決めて、粘り強く努力すること。児童(生徒)一人一人が自分に合った具体的な実践目標を「意思決定」することができるようにするとともに、自ら決めたことを実践して振り返り、自ら改善するための事後指導が重要となる。

重要



留意点

- 自分のよさや可能性を生かし、自分らしい生き方をしていこうとする態度を育てるために一人一人の意思決定を大切にすること。
- 自分に合わない目標や実現性の低い目標を決めている児童(生徒)には、「見つける」段階でみんなで出し合った考えを参考に、自分にできそうなことを選ぶよう助言する。具体的に「あなたならどうしようと思いますか」など児童(生徒)に寄り添いながら問いかけるような指導を行う。
- 児童(生徒)の意思決定内容は、具体的な取組方法や振り返りの時期(期間)などを、ワークシート(がんばりカード、キャリア・パスポート)に記入させ、事前、本時、事後の一連の指導として捉える。

(3) 板書計画

4 / 30 SNSの正しい使い方

めあて SNSを使うときに大切なことを考え、自分が気を付けることを決めよう

つかむ SNSは便利だと思いますか。

すぐに連絡が取れる。
速くの人に連絡できる。

はい 100%

いいえ 10%

ケンカにまきこまれた。
文字だけで伝わらない。
悪口がイヤ。

SNSは便利だが友達関係のトラブルにつながる。

さぐる トラブルの原因は？

送る側	受け取る側
<ul style="list-style-type: none"> 意味の伝わりにくい文章だった。 思いがけいだと分かってもらえなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章だけで判断した。 送った側の本当の気持ちを確かめなかった。

感じる、考え方のちがいがある

さぐる 解決策は？

送る前に文章を確かめる。	文章だけで決めつけない。
思いがけいは直接話して確かめる。	すぐに決めつけず、本当の気持ちを確かめる。
直接会って伝える。	

決める

SNSを使うとき、相手がどう思うかを考えて、何度も読み返して、送るようにする。

SNSを使っていて「どうしてかな」「おかしいな」と思ったら、直接相手に確かめる。

日ごろの言葉づかいや友達との接し方も見直す。

7 事後の指導 (記入例)

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童(生徒)の姿 【観点】 (評価方法)
3月4日 ～ 3月12日	・意思決定しためあてを意識して実践する。	・一人一人のめあてを掲示するなどして、実践への意欲付けとなるようにする。	◎自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、意欲的に課題解決に取り組もうとしている。 【主体的態度】 (振り返りカード、観察)
3月13日 帰りの会	・1週間後に実践について振り返る。	・友達同士で取組を確認し合う場を設け、お互いのがんばりを励まし合うことにより、実践の継続を図るようにする。	

8 その他の資料

※ワークシート、学級会ノート、シナリオなど

《参考・引用文献》

- 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 特別活動編 (文部科学省)
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 特別活動】
(文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター)
- みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編
(文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター)